

**授業概要**

日本と南アジア、南西アジアの国々との相互認識を、歴史的にさかのぼって検討する。時代的には、19世紀から現在まで、双方にかかわりの深かった人物を中心に考察する。日本における南西アジア研究と、南・南西アジアにおける日本の地域研究、地域認識を通して、互いにどのような関係を築こうとしていたのかを分析する。最終的には、地域研究における問題と課題について考える。

**授業計画**

第1回	日本とインド 歴史的関係
第2回	岡倉天心と東洋の理想
第3回	タゴールとナショナリズム
第4回	大川周明とインド研究
第5回	プラターブとアジア主義
第6回	中村屋のボース
第7回	サハーイーと朝子
第8回	A.M.ナイルと「独立の夢」
第9回	S.C.ボースとインド国民軍
第10回	インパール作戦
第11回	パール判事と「日本無罪論」
第12回	ネルーと非同盟政策
第13回	「インドの母」と国内問題
第14回	「強い」インドとは
第15回	自動車革命
第16回	筆記試験

**到達目標**

日本における南・南西アジア研究の抱える諸問題について、その時代の特徴を理解し、自分なりの考えをまとめ、また地域研究とはどのようなものかについて、理解する。

**履修上の注意**

南アジア、南西アジア地域が中心である。

**予習・復習**

シラバスに従って基本的な知識を予習する。講義後は、配布されたプリントと参考文献などを読んで知識を深めておくこと。

**評価方法**

授業中の態度、授業後に回収するリアクシオペーパーの内容が 50%、学期末の筆記試験 50%として総合的に評価する。

**テキスト**

テキストは使用しない。授業中にプリントを配布する。参考文献は適宜紹介する。